

## 東北すくすくプロジェクト 東京 RC 橋本有史様



「東北すくすくプロジェクト」は、「子育て支援施設の整備」「支え合うコミュニティ作り」「子育てに係る人材育成」の三つの柱で構成されています。

震災直後は地域外からの支援が重要ですが、1年たつとかわかってうまくいきません。そこで、われわれロータリアンが直接何かをするのではなく、地域のグループを育てて、そこがさらに奉仕活動を広げていく形を目指しました。

最初に取り組んだのは、津波で流された陸前高田市の子育て支援センター「あゆっこ」の整備でした。コミュニティの場の復興です。東日本大震災復興基金から1100万円の補助を頂き、東京 RC も1000万円を拠出して、震災翌年の立春に竣工しました。コミュニティの場ができたことで、集まったお母さんグループが仮設住宅のお年寄りの支援を始めるようになり、助け合いの輪が広がったのは全く予想していなかった成果でした。

次にわれわれが取り組んだのは、母子支援プログラムへの支援です。具体的には、「ママサロン」というコミュニティづくりと「母乳育児支援セミナー」の開催です。セミナーでは、子育ての相談に乗ることができる人材育成を目指しています。

三つ目は、「気仙沼すくすくハウス」です。陸前高田市の「あゆっこ」のようなたまり場を作ろうと考えました。ロータリー財団のグローバル補助金が使われています。しかし、気仙沼は市街地の3分の1が流されて場所がないので、ロータリアンが持っている物件を借りたところ、利益供与に当たると指摘されたり、海外からの活動資金が3割以上なければ補助金が成り立たないなどのことがありました。世界中のロータリーから支援を頂き、予算19万7000ドルの大型プロジェクトになりました。実際、気仙沼すくすくハウスは地元の子育て中のお母さんにはなくてはならない施設となり2015-2016年度では延3000名近い利用がありました。

さて今後の課題ですが、この「気仙沼すくすくハウス」を恒久的な施設とすることに尽きます。グローバル補助金は、恒久的な人道支援の「きっかけ」となることに本来の意味があります。気仙沼市では2018年4月を目指して新しい子育て支援施設の建設が進められており、その施設の幼児園児未就園児のエリアにすくすくハウスが合流することで話が進んでいます。この活動には地元の気仙沼ロータリークラブに市役所への働きかけなど全面的な協力を頂いています。

## ロータリー希望の風奨学金 地区ロータリー希望の風奨学金 支援 特別委員会 委員長 橋本恵治様



2011年3月11日の東日本大震災発生から、この3月で丸6年になります。この大震災で両親又は片方の親を亡くした遺児達に奨学金（大学生・短大生・専門学校生対象）を毎月5万円給付するこの奨学金支援プログラムは、2033年3月末まで（震災当時0歳であった遺児が大学を卒業するまで）継続する事を目標に行っております。

震災時、全日本34地区から集まった支援金は約10億円、うち北海道から千葉までの被災地区7地区に見舞金として約1億3千万円を配布しました。残り8億7千万円の用途については、その年度のガバナー会で検討がなされました。

1923（大正12年）9月1日の関東大震災は、東京 RC ができてまだ3年目位でした。その時代に、今という RI から、多くの国の地区等からの支援金が今の金額に換算すると約20億円から30億円が東京 RC に送られて来ました。米山梅吉翁が中心となって行った支援活動は、その資金を1円たりともロータリアンには配らず、自分たちの支援活動の経費にも使わなかったと記録されています。

そこで「米山精神にのっとって遺児となった青少年の教育的環境支援をしようではないか」ということに一致しました。ところが次年度のガバナー会では「このプロジェクトの引き継ぎは拒否します。預かったお金は各地区の集金額に沿って返還します」ということになりました。

そこで賛同地区だけでもやりましょうということで、2010-11PG が中心になって再度呼びかけ、全国から10地区が集まりました。そして一つの組織体を作ろうということで「ロータリー東日本大震災青少年支援連絡協議会」を結成し、それが組織母体となって「ロータリー希望の風奨学金プログラム」を立ち上げたわけです。しかし、賛同10地区で集金をしましたら3億円余になってしまったのです。ところがスタートして間もなくオール台湾から1億3千万円の支援金がありました。台湾は全地区で7地区で、そこから1億3千万円は大金です。「ロータリー希望の風奨学金は最もロータリーらしい奉仕活動だと評価しましたから支援します」と言ってくれたのです。我々の3億円と合わせますと4億3千万円でこのプログラムはスタートできました。

2033年3月末までプログラムを継続するには10億円以上の資金が必要だと予測しております。皆様からの支援総額は2016年6月末で7億8千万円を越え、残りの目標額は2億～3億円となりました。2033年3月に最後の遺児が卒業するまで厚いご支援をお願い申し上げます。

閉会点鐘



目録贈呈・感謝状授与

小田 孝志会長